

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で 明るく やさしく」を毎朝唱和し、実践に努めています。入居者様が高齢の方が多く、去年まで頻回に行っていた外出レク等が出来なくなってきましたが、その分室内で楽しめるゲーム等を取り入れ、皆様と楽しんでいます。スタッフの親も入居者さんと同じくらいの年齢の為、気持ちも身近に感じ個々の関わりも大切に行えています。フロア全体が明るくなるように、職員も一緒に楽しみながら生活の支援をしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502199-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502199-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 北海ハウス」は、近くに公園やコンビニなどがあるバス停から徒歩数分の静かな住宅地に立地している。24時間換気システムを採用した3階建ての建物で、出窓に面した居間を中心に明るく開放感のある3ユニットのグループホームである。ホーム長を中心に、各ユニットの管理者や職員がそれぞれの利用者の意向を大切に汲み取り、趣味などを継続し家庭と同じような生活が送れるように利用者や家族を支えながら前向きに運営に取り組んでいる。今年度より、月1回同法人施設の代表者と運営者との会議を実施し、更に職員の意見や要望を運営に活かす体制作りを行っている。地域行事への誘いを受けたり、保育園児の定期的な来訪、近隣住民からお裾分けを戴くなど地域住民との交流も活発に行われている。ホーム長は、外部研修の機会を活用したり定期的な勉強会を実施して職員の資質向上に向けて取り組んでいる。また、記録を工夫しながら書類の整備を行い、働きやすい職場環境作りを目指している。食事は、ユニット毎に利用者の好みを聴いて献立を作成し、一緒に買い物や調理を行い毎日30品目を目標に彩り豊かな食事を提供している。居室はこれまでの生活が窺えるような馴染みの家具や小物が持ち込まれており、居心地よく過ごせる室内になっている。

V. サービスの成果に関する項目(さくらアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時にスタッフ同士で理念を共有・復唱し、実践に努めている。	運営理念に、地域の皆様に愛されるホームを目指し、共に歩むという地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。事業所の要所に掲示し、唱和しながら再確認している。ユニット毎に独自の年間目標を掲げ、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主が自ら町内会役員となり、いつでも町内会の行事に参加できるようになっている。	白石神社例大祭の子供神輿が立ち寄りたり、保育園児が2か月毎に来訪して利用者と一緒に折り紙などを楽しんでいる。近隣の方から漬物などのお裾分けを戴くこともある。サクソ奏者や大正琴、手品などのボランティアも来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、包括支援センターの職員と共に、認知症及び、高齢者福祉についての勉強会をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、ホームでの活動報告及び、御家族様の意見等を聞き、更なるサービスの向上に活かせるようにしている。	事業所からの報告を中心に、地域包括支援センター職員による「悪徳商法対策」講話や職員の勉強会資料を基に「認知症について」の意見交換などを行っている。家族の高齢化に伴い参加者が少なくなり、開催方法も検討しながら工夫している。	入居時に運営推進会議への参加を依頼し、テーマを記載した会議案内や議事録を送付する事で、更に家族の意見が会議に活かされるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議に出席し、情報交換を行い、運営上の不明点などは、担当者に直接確認をとっている。	ホーム長は、書類の届出や生活保護課への相談などで区役所を訪問している。今年度は、短期入所受け入れについての相談なども行っている。保護課の職員が来訪した時は、利用者の様子を報告しながら相談をする事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前が車道となっており、急な外への飛び出しがないように、施錠している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した身体拘束マニュアルを整備している。外部研修後に内部で報告研修を行っている。ホーム長は、制止や禁止するような言葉かけがあればその都度指導している。禁止の具体的な行為について、今後も定期的に全職員で再確認したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度管理者が虐待防止研修会で学び、職員に勉強会をし、防止に努めている。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加し学び、現在後見人を活用している方には、その連携に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、相手の立場にたち、わかり易い言葉で説明し、疑問点など確認しやすいように、発語の機会に導くように努め、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々のコミュニケーションの中で、意見・要望を汲み取り、ご家族様とは、来訪時や電話にて情報交換を行い、運営に反映できるようにしている。	来訪時やホーム便りで本人の様子を報告しながら、家族の意見や要望を聴き取っている。家族の要望などは、個別の支援経過や日々の介護記録に記録して職員間で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管理者運営会議をもち、日頃の職員の意見等を報告している。	毎月の管理者会議で各職員の意見や要望を持ち寄り、月1回行われている同法人施設の代表者と運営者との会議で職員の提案などを伝えている。また、ホーム長は毎日各ユニットに顔を出して、職員と話しをするように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定を随時、改定したり職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を提供し、2ヶ月に一度は、ユニット勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会に参加し、ネットワークづくりや勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い都度要望を伺い、対応している。ご本人の好きな事や、食べ物の好き嫌いなどを聞き取り、積極的にコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、本人の様子を伝えながら御家族の要望を伺い、話し合いの機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報及び、入居の経緯を把握しながらデイサービス通所の支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などご本人が出来る事を一緒にやり、お互い支えあい生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への受診及び、外出支援など、御家族でなければできない事をお願いし、多方面での協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の生活暦を理解し、お墓参りや外出など御家族に協力していただきながら、関係の継続支援に努めている。	近所に住んでいた方が家族と一緒に来訪したり、宗教関係の知人が数人で訪れる機会がある。携帯電話や居室の電話で連絡を取ったり、家族と一緒に温泉に出かける事もある。近隣のコンビニも利用者の馴染みのお店になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操の時間を設け、全員が顔を合わせる場を作り、コミュニケーションを図っており、聞こえの悪い入居者さん同士の会話には仲介しながら、会話を楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に御家族より相談があった場合には、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を伺いながら、本人の自己決定に添ったケアの実施を心がけている。	会話から把握が難しい場合は、今までの利用者との関わりの経験から思いや意向を把握している。介護計画更新時に、生活状況や生活習慣などの基本情報を記録して情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報を下に、情報の共有・把握をし、ご本人からもお話を聞きながら情報の収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意欲や、有する力を、個々に合わせて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回担当者会議を行い、都度サービスの変更・追加をスタッフ全員で検討している。	利用者担当職員が行った評価を基に全職員で話し合い、家族の意向を踏まえながら計画作成担当者が3~6か月毎に介護計画の見直しを行っている。日々の「介護記録」に、短期目標のサービス内容に沿って変化や課題を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・支援経過表に記録し、日々の申し送りや、詳細に検討・共有しケアに活かしている。計画見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望により、当社併設のデイサービスの通所を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園等の来訪があったり、地域のお祭りでの子供神輿を見たりと、地域で生活している事を実感している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望・希望を大切に、御家族の協力を得ながら関係の継続の支援に努めている。	家族と専門医などを受診する時は、体調について口頭やメモ書きで伝えている。受診結果は「介護支援経過」に記録しているが、今後は受診経過が分かりやすいように記録を整理したいと考えている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	具体的な疾患症状のアドバイスを受け、症状等の相談をし、次回往診の際、医師への報告等が円滑に行えるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と情報の交換をするなど、利用者様が安心して治療に専念できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化したときの対応指針を説明し、同意を得ている。	利用開始時に、「重度化した場合の対応指針」に沿って説明して署名捺印を貰っている。体調変化に応じてその都度主治医の判断の下に家族と話し合い、医療機関や福祉施設など適切な対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも参考に出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、訓練の反省を職員全員で行っている。地域消防団の協力体制も整っている。	夜間の火災を想定した避難訓練を、各ユニットで2か月毎に自主訓練している。消防署の指導の下、昼間想定で避難訓練しているが、地域住民の参加は得られていない。備蓄品はチェックリストを作成して定期的に確認したいと考えている。	地域住民が参加した避難訓練を実施すると共に、地震を想定したケア別の対応や危険箇所の確認を行うように期待したい。職員の救急救命訓練も計画的に受講を進めるよう期待したい。

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながらの声かけ・言葉遣いに、気をつける事を心掛けている。	外部研修で接遇を学び、言葉遣いに気を付けている。気になる言葉かけがある時は、フロア会議で注意している。個人的な話は居室で聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がどのようにしたいのか選択できる言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服は本人の自己決定により選ばれ、時・場所に合わせた身だしなみは一緒に選んでいる。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る事を一緒に行っている。	ユニット毎に利用者の好みを聞いて献立を作成し、彩りと食材の品目を多くして美味しい食事を提供している。バーベキュー、天ぷら、季節の鍋料理やバイキングを楽しんでいる。出来る方は調理、後片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の把握を行い、その時々には、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、介助の必要な方には、清潔を保てるように介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、介助の必要な方には都度対応している。	排泄の状況を記録し、日中は、ほぼトイレでの排泄を支援し、数人は自力で出来ている。必要に応じてポータブルトイレを使用する事もある。排泄の声かけや誘導時には耳元で確認し、羞恥心に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をしながら、食事のメニューに気をつけ予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人が入りたい時には都度対応している。	午後の時間帯に、希望に沿って週2～3回の入浴を支援し、声かけや見守りで一人で入る方もいる。同性介助の希望に対応している。体力的に困難な場合はシャワー浴や清拭を行っている。年に数回、家族と温泉に出かける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムを把握し、夜間良眠出来る様に日中の休息も取り入れ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方、服薬状態を理解し、安全に服薬出来る様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあわせた役割を持っていただいている。気分転換に、外気浴やゲーム、行事に参加していただいたりしている。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望は難しいが、計画を立て、体調に配慮しながら、外出している	周辺や近くの公園を散歩し、車椅子使用の方も交代で出かけている。週に1回はコンビニに行く方もいる。2か月毎の夕食のほか、大通公園、百合が原公園などに出かけている。冬季にも大型スーパーに行き、受診の帰りに夕食をする事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の所持はされているが、買物などは自由に出来る様に御家族連携をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する時は、電話をしている。手紙は受け取れるが、書いて出される方はいない。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や、タペストリーなどを飾ったり、くつろげる場所作りなど、心地よく生活ができるようにしている。	各ユニットの玄関に季節の装飾品や昔懐かしい置物などが飾ってある。居間は食卓テーブルやソファの配置を工夫し、決まった場所で落ち着いて過ごす事が出来るようにしている。利用者がお茶やコーヒーが飲めるようにポットを準備し、寛げるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が過ごせるソファを置いたり、独りでもゆつく居られるよに配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の馴染みの家具を持ち込まれ利用されている。	居室入口前のメモリアルボックスには、好みの物が飾ってある。馴染みの家具や小物類、鏡台、仏壇、テレビ、趣味の物が持ち込まれている。壁には家族の写真などが貼ってあり、その人らしい生活感のある居室づくりになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷わないように表示をしたり、混乱しないような環境づくりに心がけ、安全に生活できるよう工夫している。			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で 明るく やさしく」をモットーに、「その人らしく」入居者様一人ひとりの力を発揮出来る様に役割作りを行い、楽しく協力し助け合えるような暮らし提供しています。毎月レクリエーションを企画し、皆さんと一緒に楽しんでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502199-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502199-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(ひまわりアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホワイトボード、職員のロッカールームと、常に目の付く所に掲げて業務に生かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主が自ら町内会役員となり、いつでも町内会の行事に参加できるようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、包括支援センターの職員と共に、認知症及び、高齢者福祉についての勉強会をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、ホームでの活動報告及び、御家族様の意見等を聞き、更なるサービスの向上に活かせるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者会議に出席し、情報交換を行い、運営上の不明点などは、担当者に直接確認をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前が車道となっており、急な外への飛び出しがないように、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に一度管理者が虐待防止研修会で学び、職員に勉強会をし、防止に努めている。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加し学び、現在後見人を活用している方には、その連携に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、相手の立場にたち、わかり易い言葉で説明し、疑問点など確認しやすいように、発語の機会に導くように努め、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々のコミュニケーションの中で、意見・要望を汲み取り、ご家族様とは、来訪時や電話にて情報交換を行い、運営に反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管理者運営会議をもち、日頃の職員の意見等を報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定を随時、改定したり職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を提供し、2ヶ月に一度は、ユニット勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会に参加し、ネットワークづくりや勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を実施し、色々な要望などを聞き取り、安心して生活できる様な環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行う事で、今後の生活に向けての色々な要望に耳を傾け、話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望、要望を聞き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い学び、助け合い支えあい生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌で様子を伝え、来訪時や電話で近況報告をし、協力しながら関係を築き、本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活暦を理解し、御家族や馴染みの方との外出や電話連絡など、関係の継続を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や行動等を把握し、孤立しないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、必要に応じた情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を伺いながら、その人らしい暮らしが出来る様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報を収集し生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や温度板を活用し、健康状態や生活のリズムの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、都度サービスの変更・追加をスタッフ全員で検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護支援経過表を活用し、職員間で情報の共有、交換をしながら、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方をお願いし、楽しめる機会を作り支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診があり、疾患の状態により、他の病院受診にも対応している。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とのカンファレンスを行い、往診時医師との連携がとれる様に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と情報の交換をするなど、利用者様が安心して治療に専念できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化したときの対応指針を説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備え、すぐに対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、訓練の反省を職員全員で行い、地域との協力体制も整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながら声がけ、言葉遣いに気をつける事を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や行動に合わせて、安心した生活を送れる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを尊重し、おしゃれが出来る様に支援している。		



グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、季節を感じてもらいながら、一緒に配膳・片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多品目の食材を使用する事を心がけ、水分提供にも気をつけ行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、起床時、毎食後、就寝時に声かけを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、介助の必要な方には都度対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をしながら、食事のメニューを工夫したり、運動を一緒に行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まない方には、気持ちに配慮しながら声かけし、リラックスし気持ちよく入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、夜間良眠できるように、日中にも休息を取り入れ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの症状や服薬状態を職員間で確認し、安全に服薬出来る様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みを把握し、皆で楽しめるレクリエーションを行い、気分転換を図っている。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の体調管理に配慮し、希望にそえるよう外出先を検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じ、助言をしながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に連絡できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間、環境作りをし、季節の装飾や、ゆったりと過ごせる場所を設けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、心地よく生活出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を持ちこんで頂き、安心して生活できる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握し、安全に自立して生活できるように工夫している。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で 明るく やさしく」を基本に毎朝理念の唱和しながら確認し実践に努めています。利用者様の残存能力を発揮して頂けるよう、一人ひとりの力に合わせた役割や楽しみを見つけ、調理・片付け・掃除・洗濯・買物等を常に利用者さまと職員が一緒に行い、助けあって生活をしています。家庭的な雰囲気を大切に四季の飾りつけをし、フロア内を和ませています。献立作りは、利用者様と一緒に立て、季節の旬の食材を取り入れたりと美味しく頂いています。事業所の内部研修をその時に応じたテーマで定期的実施し、外部研修にも参加できる体制作りをしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502199-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502199-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(すずらんアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 明るく やさしく」と理念の唱和を毎日朝の送りでしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主が自ら町内会役員となり、いつでも町内会の行事に参加できるようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、包括支援センターの職員と共に、認知症及び、高齢者福祉についての勉強会をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、ホームでの活動報告及び、御家族様の意見等を聞き、更なるサービスの向上に活かせるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者会議に出席し、情報交換を行い、運営上の不明点などは、担当者に直接確認をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会をフロア会議で実施し共有認識を図っている。外に出たがる方には阻止せず、一緒に外出等している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議にて勉強会を行い、外部研修にも参加し、高齢者虐待防止法に関する理解、浸透や遵守にむけた取り組みを行っている。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加し、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、相手の立場にたち、わかり易い言葉で説明し、疑問点など確認しやすいように、発語の機会に導くように努め、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々のコミュニケーションの中で、意見・要望を汲み取り、ご家族様とは、来訪時や電話にて情報交換を行い、運営に反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管理者運営会議をもち、日頃の職員の意見等を報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定を随時、改定したり職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を提供し、2ヶ月に一度は、ユニット勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会に参加し、ネットワークづくりや勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、生活状態を把握するように努め、ご本人の困っている事や不安を理解しようと工夫し職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、御家族が求めているものを理解し、事業所でのサービス内容を説明しながら、関係づくりをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思い、状況等を確認し必要とするサービスを検討し、その人に合ったサービスを受けられるように対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事援助を行う際に、出来る事に焦点をあて、共に寄り添いながら、関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来訪の際、ご本人の日々の様子をお伝えしたり、御家族の要望を汲みとりながら、良好な関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の使用や友人の来訪等は自由にされ、御家族に協力を頂きながら、お墓参り・馴染みの美容室にいける様に支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活では、職員が介入しながら家事を行ったり、利用者同士で好きなテレビを観たり、ホームパーティーを行うなど、交流を深めている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでもこれまでの生活が継続できるように、必要な情報の提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での表情や思い、意向を把握し不安を取り除けるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や情報の収集し、自分らしく過ごせる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人・御家族より要望を聞きながら、一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や小さな動作からも感じとりながら、本人の全体像を把握し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人・家族様より要望を聞き取り反映し、職員全員で意見交換や、モニタリング・カンファレンスを行い、細かな見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をとり、食事・水分・排泄等、身体的状況及び、日々の暮らしの様子を本人の言葉で残したり、気づきなども記録し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、都度対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園等の来訪があったり、地域のお祭りでの子供神輿を見たりと、地域で生活している事を実感している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診があり、疾患の状態により、他の病院受診にも御家族の協力を得ながら対応している。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とのカンファレンスを行い、往診時医師との連携がとれる様に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と情報の交換をするなど、利用者様が安心して治療に専念できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化したときの対応指針を説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に夜間想定避難訓練を行い、町内の消防団にも協力していただくように要請している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心、誇りやプライバシーを損ねないように、言葉遣いや対応に気をつけ、ユニット全体で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた対応を行い、希望を表出しやすい様、声かけ支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先しないように、一人ひとりの生活に合わせて安心できる環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好みの物を選び、職員の支援が必要な時にはお手伝いし、パーマやカラーなどおしゃれを楽しめる様に手配している。		

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居様が、果物、野菜の皮むきなどの下ごしらえ、食事の盛り付けをスタッフと一緒に、片付けも率先で行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の一人ひとりの食事・水分量を把握し、不足気味の方にはゼリーなどを提供し、栄養摂取量バランスに気を付けた献立作りをしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い、自力困難な方には、介助を行い口腔内の清潔に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導及び介助を行いトイレで排泄出来る様に支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、繊維質の多い野菜を取り入れたりしている。個々の排便管理をし			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて、お風呂好きの方にはゆったりと入っていただけるようにし、入浴を好まない方には声かけを工夫しながら支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、夜間良眠できるように、日中にも休息を取り入れ支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬のセットから服薬まで、誤薬等が無いように常にスタッフ2名で確認し、更にご本人にも確認して服薬の支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に副って、役割をもって生活して頂いている。			

グループホーム 北海ハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や季節を感じとれるように外出の機会をつくり、外出や外泊も御家族の協力を得ながら行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の所持はされているが、買物などに出来る様に御家族連携をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に連絡できるように支援している。電話設置、携帯電話を持たれている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間、環境作りをし、季節の装飾や、ゆったりと過ごせる場所を設けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、心地よく生活出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持ち込まれ、ご本人・家族と相談しながら、危険がないような配置にし、居心地良く暮せるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした生活を支援し、出来る事や出来る事を失敗・混乱しないように支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 北海ハウス

作成日：平成 27年 12月 2日

市町村受理日：平成 27年 12月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、家族の高齢化に伴い参加者が少なくなり、話し合い・意見交流が減ってきている。	運営推進会議が利用者様及び、御家族様より意見交換がしやすい会議の場となるようにしていく。	新しく入居される方々には、運営推進会議への参加を依頼し、テーマを記載した案内及び、議事録を送付し、御家族様よりの意見が会議に活かされるようにしていく。	2年
2	35	災害対策において、地域住民が参加した夜間想定避難訓練及び地震を想定したケア別の対応が成されていない。	昼夜を問わずに災害訓練を地域の協力を得ながら行うことができるようになる。	全職員の救急救命訓練を計画的に行い、地域住民及び、消防職員の協力を得ながら、ケア別の対応や危険箇所の確認を行っていく。	2年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。